

①ウポポイ（民族共生象徴空間）の整備 ～国立民族共生公園と周辺事業との連携について～

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 国営滝野すずらん丘陵公園事務所
国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 室蘭道路事務所
文化庁、北海道 胆振総合振興局、白老町、北海道旅客鉄道株式会社

キーワード アイヌ文化の復興、事業連携、交通アクセス改善

全建賞審査委員会の評価ポイント

国立アイヌ民族博物館及び国立民族共生公園の整備と道路・鉄道等の周辺施設の一体整備。多様な機関が連携し、景観的な配慮と共に交通計画、さらに公園と博物館が一体となつてのアイヌの世界観・自然観を学べる象徴空間を創出した点や、令和2年の上半期の観光客数が前年度に比べ4割増加している点が評価された。

1. はじめに

ウポポイ（民族共生象徴空間）は、アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして、アイヌの歴史、文化等に関する幅広い理解の促進の拠点並びに将来へ向けてアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための拠点になるよう、北海道白老町に整備された。中核区域は国立アイヌ民族博物館（以下「博物館」）及び国立民族共生公園（以下「公園」）により構成され、令和2年7月12日に開業となった。



ウポポイ中核区域全景

2. 事業の概要

ウポポイは、公園と博物館が一体となつて象徴空間としての機能を実現するため、関係機関（文化庁・北海道開発局等）による連携会議により相互に十分な調整を図りながら事業を推進した。また、開業に向けて国内外から多数の来場を見込んでおり、関係機関（国土交通省・北海道・白老町・北海道旅客鉄道（株））による交通アクセス検討会を組織し、道路拡幅、白老駅前広場、自由通路及びバリアフリー化等について連携して事業を実施した。



交通アクセス連携図

3. 事業の成果

公園（国土交通省）と博物館（文化庁）を連携して整備することにより、一体となる象徴空間の機能を実現し、美しい景観や豊かな自然を背景にアイヌの世界観、自然観を学べる空間を整備することができ、アイヌ文化の復興等に寄与した。

交通アクセス検討会では、来訪者のアクセスを支える道路・公共交通の確保、シームレスな交通誘導、地域の生活環境への配慮、ウポポイと連携した案内標識の配置・デザイン等を検討し、各事業を実施した。

関係機関と連携して整備を行った結果、目立った渋滞はなくスムーズな交通流となり、それぞれの事業の整備効果が十分に発揮されたことにより、交通アクセスの改善が図られた。

さらに、ウポポイのある白老地区における令和2年度上半期の観光客数が前年度に比べ約4割も増加しており、地域活性化に大きく寄与している。

4. おわりに

ウポポイでは、伝統的な歌や踊り、楽器演奏等によりアイヌの世界観を体感できる伝統芸能上演やアイヌ文化を体験できる様々なプログラムが用意されている。ウポポイでの様々な取り組みを通じて、アイヌ文化の理解促進、創造発展につなげることを期待する。

賛助会員 パシフィックコンサルタンツ(株)